

Contents

03 特集

食料安全保障と栄養の確保に向けた 気候レジリエンスの構築

—FAO『世界の食料安全保障と栄養の現状 2018年報告』

09 Report 1

移住と農業・農村開発

—FAO『世界食料農業白書 2018年報告』

14 インターン報告記

「対岸の火事でない」再認識の契機に

上智大学 法学部 地球環境法学科 2年 西澤 崇

15 Report 2

森林を通じた持続可能な開発への取り組み

—FAO『世界森林白書 2018年報告』

20 日本の世界農業遺産

第6回 清流長良川の鮎

岐阜県農政部里川振興課 藤井 亮吏

24 FAO 寄託図書館のご案内

25 Photo Story

携帯アプリが伝統的なミルク生産にもたらした変革

—カザフスタンに導入された「Collect Mobile」

28 FAOで活躍する日本人 No.54

「何にでも挑戦」で培った信頼

FAO 駐日連絡事務所リエンゾオフィサー（副所長） 三原 香恵

30 FAO MAP

調理に木材燃料を利用している世帯の割合

「栄養のための行動の10年」が 始まっています

国連は2016年から2025年までの10年間を「栄養のための行動の10年」と定めています。今日、世界では約8億2,000万人が栄養不足の状態にあり、約1億5,000万人の5歳未満児が発育阻害の症状を示している一方で、約6億7,000万人が肥満の状態にあります。FAOとWHO（世界保健機関）は、他の国連機関や関係者とともに、こうしたあらゆる形の栄養問題に関する認識を高め、幅広い関係者が協働して取り組むために中心的な役割を果たしていきます。

「家族農業の10年」が始まります

2019年から2028年までの10年間を「家族農業の10年」とすることが、2017年の国連総会で決議されました。2014年の「国際家族農業年」でも注目されたとおり、家族農家は世界の食料生産の8割を担っている一方で、貧困層が多く食料不安に陥りやすい人々でもあります。「家族農業の10年」は、FAOと国際農業開発基金（IFAD）が推進を主導することになっており、家族農家の果たす役割に引き続き光を当てながら各国の取り組みを支援していきます。

世界の農林水産

World's Agriculture, Forestry And Fisheries

Winter 2018 No.853

世界の農林水産

Winter 2018

通巻853号

平成30年12月1日発行

(年4回発行)

発行

(公社) 国際農林業協働協会 (JAICAF)

〒107-0052

東京都港区赤坂8-10-39

赤坂KSAビル3F

Tel : 03-5772-7880

Fax : 03-5772-7680

E-mail : fao@jaicaf.or.jp

www.jaicaf.or.jp

共同編集

国際連合食糧農業機関 (FAO) 駐日連絡事務所

www.fao.org/japan

三原 香恵、千束 阿貴

公益社団法人 国際農林業協働協会 (JAICAF)

森 麻衣子、今井 ちづる

デザイン：岩本 美奈子

本誌はJAICAFの会員にお届けしています。
詳しくはJAICAFウェブサイトをご覧ください。

re100

古紙パルプ配合率100%
再生紙を使用